

## P8-1 できない原因を知りたい！LD児の学校生活が改善した一例

○田中 裕二(OT)<sup>1)2)</sup>，武久 洋三(MD)<sup>1)</sup>

1) 社会福祉法人関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校

2) 国立大学法人奈良教育大学 特別支援教育研究センター

Key word：発達障害，学習障害，書字

**【報告の目的】**今回，書字能力および運動機能の改善に着目し，児および母親に対しての心理的側面への支援，小学校への情報提供により学校生活の改善が認められたのでここに報告する。尚，報告に関しては本人，母親より同意を得ている。

**【事例紹介】**10歳，男児，小学校4年生，通常級在籍。学習場面では，国語，体育の順で苦手であり，書字場面では大枠でなければ枠からはみ出してしまう。板書の文字を読みながら書字することが苦手。体育の場面では前転や後転が出来ずに専用のレーンが作られてしまう。など教員より叱咤激励を度々受けていた。

**【作業療法評価】**ADLは自立，対話に対するレスポンスの遅延は認めるがコミュニケーションは可能であった。合意目標設定では，字が綺麗に書けるようになりたい。実行度10/10，達成度3/10。運動がしっかりとできるようになりたい実行度10/10，達成度3/10。であった。WISC-IVはFSIQ98(VCI:101, PRI:98, WMI:94, PSI:99)，Trail Making Test(以下，TMT)-Aは119秒，TMT-Bは144秒で低値を示していた。かな拾い無意味綴は正答数25，拾い落とし3，拾い誤り0。かな拾い有意味(文意記憶負荷あり)は正答数12，拾い落とし33，拾い誤り0。で特に有意味での二重課題において低値を示し，ストーリーの把握は全くできなかった。Manual Muscle Testing(以下，MMT)では全身の粗大筋力の低下を認め，特に左右共に体幹，肩甲帯では4であった。簡易上肢Simple Test for Evaluating Hand Function(以下，STEF)では，右85点左87点であった。

**【作業療法実施計画】**60分の個別作業療法を計12回実施。注意機能に対してはiPadアプリを使用してTouch the Numbersを使用。筋力，協調性に対してはClosed Kinetic Chainによる活動を実施。以上の注意機能，筋力，協調性課題においては同席している母親にも協力して頂き，児童への心身状態の理解力向

上と家族の関係性をより良い状態になるように試みた。書字練習，マット運動に対しては身体ガイドとフェイディング法を実施した。自宅でのセルフトレーニングは，iPadアプリを使用し注意機能課題を実施，体幹，肩甲帯，上肢への筋力，協調性に対しては，マット運動などを家族監視下にて実施。手指巧緻性は，ペン回しなど遊びながら行える活動を提示した。また，小学校に対してはOT初回から1ヶ月後，3ヶ月後に児童の現状と対応についての申し送りを実施した。

**【結果】**TMT-Aは72秒，TMT-Bは101秒でA，B共に向上を認めた。かな拾い無意味綴は正答数38，拾い落とし1，拾い誤り0。かな拾い有意味綴(文意記憶負荷あり)は正答数25，拾い落とし3，拾い誤り0で無意味綴，有意味綴ともに向上を認めた。また，有意味綴における二重課題では，大雑把なストーリーの把握が可能であった。MMTでは概ね4～5での向上を認めた。STEFでは，右100点左100点と向上を認めた。

**【考察】**上手に書字，運動できない要因としては多種の感覚の情報が統合し，協調的に働くことができていないと考えた。問題点の1つは注意，筋力，上肢の心身機能におけるベース能力の低さである。2つ目は書字やマット運動における多種の感覚情報を適切に処理，統合することに困難さを抱えていたと考える。各種単独の検査場面においては低値を示すことや，かな拾い有意味綴り(文意記憶負荷あり)においては更に著しい低値を示したことから推察できる。以上のことから，心身機能のベースアップを図り，運動における協調的な活動を身体ガイドとフェイディング法にて段階付けを行うことで，症例にわかりやすく伝わったこと，成功体験を意図的に演出していったことが，症例の状態の改善に大きく影響したと考える。